

プログラム構築の背景

＝基礎・臨床融合型教育の有用性＝

臨床系分野一教員の指導する大学院生の筆頭論文の変遷

1994~2000

Acta Ophthalmol Scand

Jpn J Ophthalmol

Br J Ophthalmol

Am J Ophthalmol

14報

1998

自分の指導する大学院生全員を一基礎
分野の教員との複数指導体制を構築

2001~2008

Acta Ophthalmol Scand

Jpn J Ophthalmol

Br J Ophthalmol

Am J Ophthalmol

Ophthalmology

J Cell Physiol

Biochem Biophys Res Commun

J Clin Invest

J Immunol

47報



企業との
共同研究

加齢黄斑変性症
治療薬の開発

2002 日本眼科学会学術奨励賞

2003 第8回日本血管細胞生物学会

Young Investigator Award

2006 日本眼科学会学術奨励賞

2006 Pfizer Ophthalmic Award基礎部門

歯科医学における基礎・臨床融合型 ボーダレス教育研究拠点の形成

医歯学総合研究科(歯科系)に新たなコースワークを構築する。各分野に所属する大学院指導教員は、**4つのコース**のいずれかに所属し、担当する博士課程の学生に対し、コースに所属する複数の教員(基礎+臨床)とともに、基礎・臨床融合型ボーダレス教育を行う。

技術支援

疾患遺伝子
実験センター
機器分析
センター
アイソトープ
総合センター

講義支援

生命倫理
研究センター
知的財産本部
留学生センター

コースワーク

発生・再構築学コース

(Developmental Biology,
Reconstruction)

健康科学コース

(Oral Health, Education)

口腔化学コース

(Oral Biochemistry,
Mucosal Biology, Diseases)

組織材料工学コース

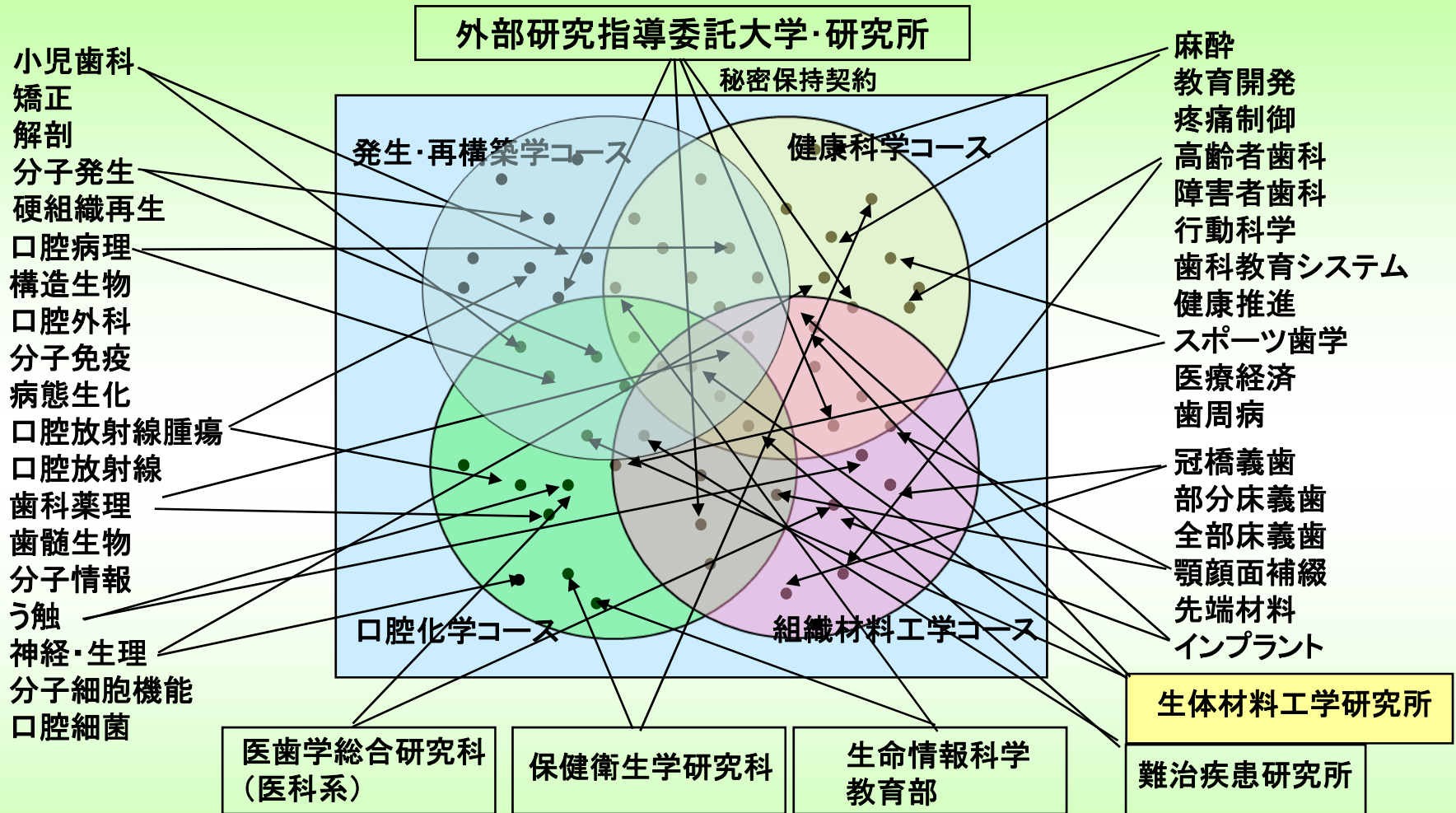
(Biomaterials, Bioimaging)

国際化支援

外国人教員による
実践英会話授業

Technical and
Scientific Writing

教員個人によるコース選択



医歯学総合研究科所属大学院教員(●)は分野に所属するとともに、各コースに所属し、博士課程の学生に対し、複数の教員による基礎・臨床融合型ボーダレス教育を行う。

医学・歯学領域における教員の独立性の確保

プログラムタイムテーブル

教員集会・FDによる徹底周知

各コースへの教員の配置

コース授業(各コース2、複合5程度)の開設

複数分野の授業の統合と実質化

臨床分野所属学生

大学院入学

分野における臨床教育

4年間の臨床教育

コースワークにおける
ボーダレス教育

分野開設授業

主指導教員の決定

共通科目
初期研究研修プログラム
知的財産・医療倫理関連授業
外国人教員による実践英会話授業

自動的

所属コースの決定

コース開設授業

テーマ決定
研究計画書の立案

複数副指導教員の決定

学生と複数指導教員の
研究打ち合わせ

コース内発表会
(defense)

学位申請論文の作成

学位審査は
指導教員を除く

Technical and
Scientific Writing

研究計画書のブラッシュ
アップ

随時、6ヶ月毎

研究終了時

学位申請

1年次

2年次

3年次・4年次

本プログラム実施による期待される効果

- ① 研究計画立案時における学生の自主性、指導教員選択の自由の保障
- ② 研究計画案にのっとり目標設定
- ③ 教員のレベルにより生じる指導の不公平さの軽減
- ④ defenseシステム導入による対外的評価のアップ
- ⑤ 教員・学生間に生じる個人的問題の解消

1. 分野教育とコースワークでの教育により、臨床系分野学生が研究活動を通じて科学的根拠に基づいた医療を実践できる臨床歯科医の育成が可能となる。
2. 臨床分野教員を指導体制に加えることにより、基礎系分野学生が臨床指向型研究分野で世界をリードする研究者の育成が可能となる。
3. 分野間研究の連携が円滑になる(科研費の研究分担者としての適正な経費配分)。
4. 学外研究委託学生に対し、責任を持った教育研究が可能となる。
5. 臨床系教員の負担減と臨床教育の充実。
6. 若手教員の教育研究の独立意識が高まる。
7. デンタルサイエンスに対する基礎・臨床分野における共通認識が深まる。

本プログラムの展開

- 2008 基礎・臨床融合型ボーダレス教育研究プログラムの開始
大学ホームページでの紹介
大学院学生募集要項への記載
- 2010 内部・外部評価委員による評価に基づく改善
日本歯科医学教育学会での紹介
- 2012 本学大学院全研究科への導入
ネットワークを用いた全国歯科系大学院との連携
- 2013 歯科系大学院教育システムの国際標準化

歯学における研究者養成エリートプラン(1)

- 先端歯学国際ネットワーク(国公立)

1. サマースクール
2. 国際シンポジウム

2008 Anglo-Japanese Symposium: Network for International
Education and Research in Advanced Dental Sciences

2009 USA-Japanese Symposium: Network for International
Education and Research in Advanced Dental Sciences

- 口腔からQOL向上を目指す国立大学間研究連携

シンポジウム(再生工学、咀嚼・嚥下機構、口腔環境:制御)

先端歯学国際教育研究ネットワーク

国立大学歯学部長・病院長会議

政策機能調整会議の設置
(平成15～16年度)
大学院研究教育分科会
研究プロジェクト分科会
治験機能調整分科会

歯学教育研究水準の
国際競争力低下の懸念

医療系学部等連携推進経費

公立・私立歯科大学
研究者の参加

各大学
教授会

これまでの事業

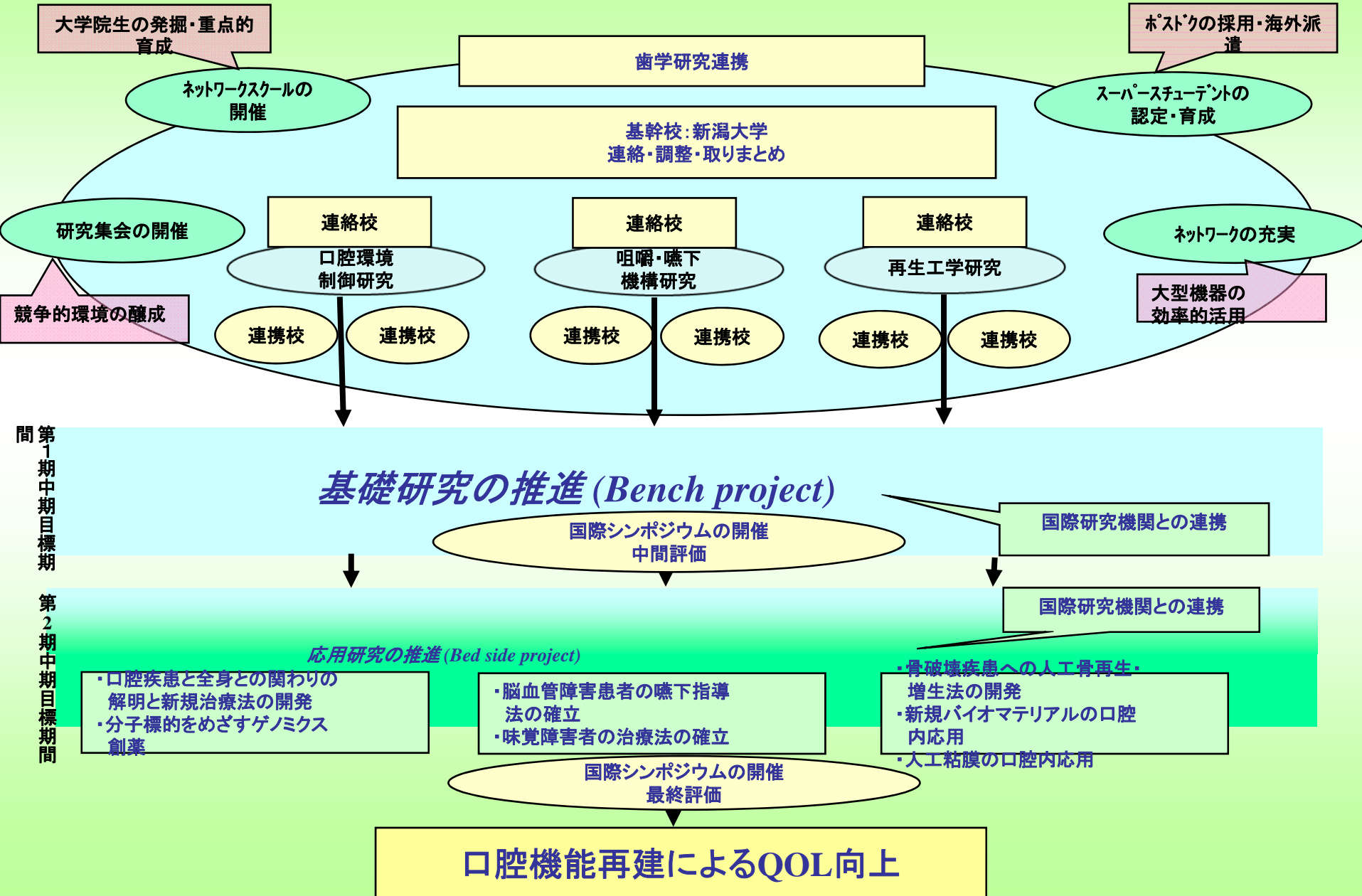
ネットワークスクールの開催(H17:2回、H18:1回)
スーパースチューデントの発掘・表彰
先端研究者によるKeynote Lecture
共同研究推進の可能性の討議(H17～19)

先端歯学国際教育研究ネットワークの設置(平成17年度)

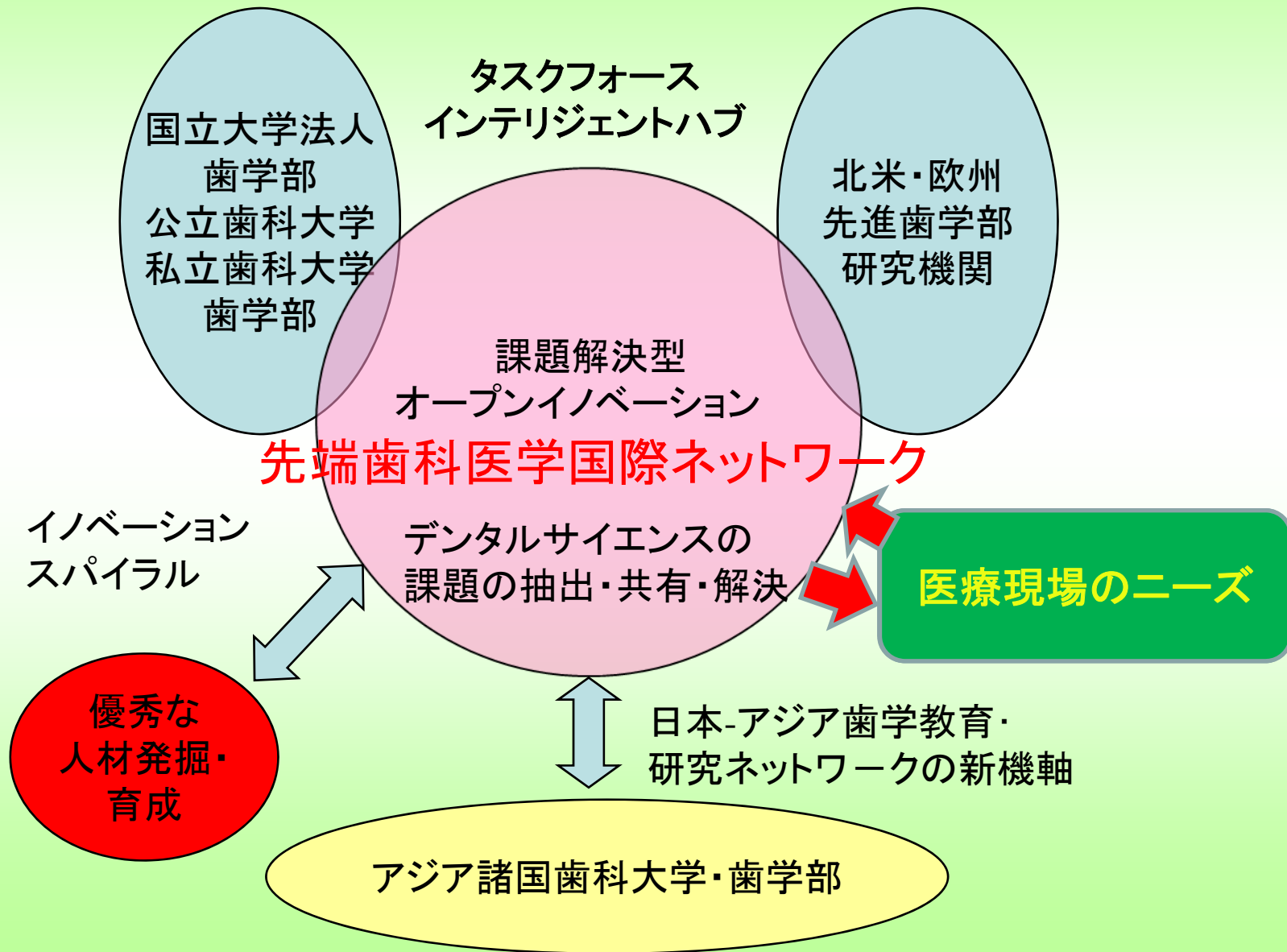
- ・ 全国第一線の歯学系研究者が糾合する恒常的プラットフォームの提供
- ・ 先端的な研究交流環境の創発
- ・ 全国歯学部から選抜された優秀な大学院生に、世界最先端級の研究社会環境を経験させ、一流の研究マインドに密に接する機会の提供

我が国歯学の先端研究者と未来を担う若手人材が交流する場を恒常的に設置することにより、世界に伍してその最先端を切り開きながら切磋琢磨する土壌と精神が涵養されることへの期待

口腔からQOL向上を目指す国立大学間研究連携 (H20~25)



歯科医学教育研究のオープンイノベーション



歯学における研究者養成エリートプラン(2)

- ・ 口腔医科学フロンティア

シンポジウム： 若手研究者のリクルートを目的

- ・ G-COE (歯と骨の分子疾患科学の国際教育拠点
デント・メドミクス of インテリジェンスハブ)

国際学会・外国人研究者招聘・短期留学

G-COEの目的

歯と骨のG・COEの目標

再生を超える

Super Tooth

酸・塩基に強く、歯垢もつかず

天然の歯の強度と破壊耐性を超える

Super Bone

天然骨の強度と吸収への耐性を超える

世界への発信

研究・教育の最先端拠点を確立

診断治療法の基盤研究への発展

I. 国際教育推進部

(1) 国際大学院教育推進委員会

- ① 国際大学院教育プログラム担当
- ② 大学院生国際リクルート担当
- ③ 国際総合プレゼンテーション担当
・海外の担当教員(チューター)

(2) 若手育成委員会

- ① 採用人事・育成担当(若手国際公募)
- ② グラントライティング・アワード担当
- ③ キャリアパス担当

(3) 海外先端研究教育ネットワーク委員会

- ① 国際シンポジウム担当
- ② 国際ディベート・リトリート担当
- ③ 国際教育アドバイザー担当
- ④ 国際広報担当

国際PIシャペロン育成

アドバンスト-I-SS育成

III. 国際・国内運営諮問委員会

- ① 国際運営諮問・外部評価担当
- ② 国内運営諮問・外部評価担当



海外大学院との教育上の協力



海外チューターによる教育



研究ネットワークに基づく研究

II. 国際研究推進部

(1) 先端拠点研究推進委員会

- ① イノベーション研究推進担当
- ② 先端融合研究・パイオリソース担当

(2) 臨床研究推進委員会

- ① 先端医療・産学協同研究担当
- ② 国際知財・シーズ探索担当
- ③ 臨床研究評価・TR推進担当

分子病態研究

治療法の基盤研究

疾患分子の統合的解析

デント・ドミクスの
インテリジェンス・ハブの形成

IV 国際コーディネーター室

- ① 国際教育研究支援担当
- ② G-COE事務局